

令和3年度 全国学力・学習状況調査(6年生100名実施)の結果から

我孫子市立高野山小学校
教 務 部

【国語の調査結果にみられる特徴と現状】

<全体>

・教科全体としての正答率は全国平均を上回っている。

<観点別正答率>

- ・「話すこと・聞くこと」は全国平均をやや上回っている。
- ・「書くこと」は全国平均より大きく上回っている。
- ・「読むこと」は全国平均とほぼ同じ。

<問題形式別正答率>

- ・「選択式」「短答式」は全国平均を上回っている。
- ・「記述式」は全国平均を下回っている。

国語のみならず、様々な教科で学習の最後に自分の言葉で「ふり返り」を書くという指導の成果が、観点別「書くこと」の正答率を高めた成果だと捉え、今後も継続していく。

【算数の調査結果にみられる特徴と現状】

<全体>

・教科全体としての正答率は全国平均とほぼ同じ。

<観点別正答率>

- ・「数と計算」は全国平均とほぼ同じ。
- ・「図形」は全国平均より大きく下回っている。
- ・「測定」「変化と関係」「データの活用」は全国平均を上回っている。

<問題形式別正答率>

- ・「選択式」は全国平均を上回っている。
- ・「短答式」は全国平均とほぼ同じ。
- ・「記述式」は全国平均を下回っている。

調査結果から、図形の面積の求め方について、筋道を立てて説明できるようにする指導を充実させていく必要がある。

【学校質問紙調査の結果にみられる特徴と現状】

- ・「国語科の指導方法」は全国平均とほぼ同じ。
- ・「算数科の指導方法」は全国平均を上回っている。
- ・「授業改善」は全国平均を上回っている。
- ・「生徒指導」は全国平均を下回っている。
- ・「学校運営」は全国平均をやや上回っている。
- ・「教職員の資質能力の向上」は全国平均を上回っている。
- ・「家庭や地域との連携等」は全国平均を大きく下回っている。

校内研修で算数を中心に研修を深め、指導主事からの指導助言を基に職員全体で授業改善に取り組んできた。その成果が数値に現れ始めたと考えられる。

しかし、昨年度については、新型コロナウイルスの影響もあり、例年行っている行事等が中止となり家庭や地域に学校を開く機会が減少した。中でも学習参観・懇談会は中止となり、保護者に学校の様子を見て頂く機会もほぼ無い状況であった。そのことに伴い、「家庭や地域との連携等」についての数値が下がったと考えられる。コロナ禍であっても、家庭や地域といかに連携を取っていけるかを検討していく必要がある。

【児童質問紙調査の結果にみられる特徴と現状】

- ・「国語への関心等」は全国平均とほぼ同じ。
- ・「算数への関心等」は全国平均をやや下回っている。
- ・「規範意識」は全国平均をやや下回っている。
- ・「自己有用感」は全国平均とほぼ同じ。
- ・「生活習慣・学習習慣」は全国平均を下回っている。

新型コロナウイルスによる休校期間などの影響もあり、児童の生活習慣や学習習慣が乱れがちな様子である。児童の心身の状況に配慮しながら、生活習慣や学習習慣を規則正しく改善するための指導や家庭への働きかけが必要であると考えられる。

【改善策及び検証方法】

<改善目標>

- ①国語、算数ともに「記述式」の問題に対する正答率を上げる。
- ②児童の「生活習慣・学習習慣」を改善する。そのための働きかけを、児童のみならず家庭等にも行い、協力を得ていく。

<改善方策>

① について

- ・日頃の授業の中で、自分の考えや意見を文章化する場面を多く取り入れる。
- ・文章を読む際に、文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにした上で、文章と図表などの関係を捉えて読むことができるように指導する。例えば、文章中の言葉と図表などを線で結び付けるなどして視覚的に理解できるようにする。
- ・授業以外の場面でも、日常的に自分の考えを他者へ説明する場を設定する。

②について

- ・「高野山学習メソッド」を全学級で徹底し、保護者にも周知する。
- ・家庭学習に取り組む時間や内容を自分で決める。(学習計画を立てる)
- ・家庭学習に取り組む際の「ながら勉強」をやめる。(学習環境を整える)

<検証方法>

- ①については、我孫子市の標準学力調査や次年度の全国学力・学習状況調査の結果数値を基に、取組の成果について検証する。
- ②については、継続的に働きかける中で家庭学習への取り組み方から変容を評価する。また、学校評価等のアンケート調査結果から家庭での「生活習慣・学習習慣」にどのような変容があったかを検証する。